

「デュルバルマブ+トレメリムマブ+CBDCA+nabPTX 療法」について

この治療法は、肺癌の代表的な治療法です。デュルバルマブ、トレメリムマブ、CBDCA(カルボプラチン)、nabPTX(アルブミン懸濁型パクリタキセル)の4種類の薬剤を使用します。

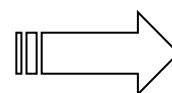
1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間	1日目	8日目	15日目
生理食塩液	輸液・血管確保	—	○		
トレメリムマブ	抗がん剤	60分	○		
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	30分	○		
デュルバルマブ	抗がん剤	60分	○		
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分	○		
ホスネツピタント+ パロノセトロン+ デキサメタゾン	吐き気予防	30分	○		
デキサメタゾン	吐き気予防	15分		○	○
アルブミン懸濁型パクリタキセル	抗がん剤	30分	○	○	○
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	30分	○	○	○
カルボプラチン	抗がん剤	60分	○		
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分	○		

2. スケジュール

デュルバルマブ+トレメリムマブ+CBDCA+nabPTX は21日間を1サイクルとして抗がん剤を投与していきます。初日、8日目、15日目に抗がん剤を投与します。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル目			2サイクル目		
	1日目	8日目	15日目	1日目	8日目	15日目
トレメリムマブ	○	—	—	○	—	—
デュルバルマブ	○	—	—	○	—	—
アルブミン懸濁型 パクリタキセル	○	○	○	○	○	○
カルボプラチン	○	—	—	○	—	—



3. 特徴

●デュルバルマブ

作用:免疫細胞の働きにより、抗がん作用を示します。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。



●トレメリムマブ

作用:免疫細胞の働きにより、抗がん作用を示します。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●アルブミン懸濁型パクリタキセル

作用:がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項:点滴中に痛みや違和感がある場合はお知らせください。

nabPTX に使用しているアルブミンは人の血液を原料としているので、ウイルスや細菌による感染を取り除くために、血液を採取する段階から問診や検査を行い、製造過程では加熱処理し、製造後にはウイルス検査を行うなど安全対策を実施しています。

●カルボプラチン

作用:がん細胞内の DNA と結合することで細胞分裂を止めて抗がん作用を示します。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

※デュルバルマブ、トレメリムマブによる副作用は別紙をご参照ください。

脱毛

好発時期: 2～3週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2～3ヶ月で回復し始めます。

対策: 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただけるとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



しびれ(末梢神経障害)

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経や運動神経を傷害することで発症します。症状は手、足先から出てくることが多く、しびれ、感覚麻痺などが初期症状として出てきます。症状が進行すると筋肉に力が入りにくくなり、つまずきや転倒の原因にもなります。ほとんどの場合治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる(数ヶ月～1年)場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方することもあります。

好発時期: 抗がん剤点滴終了後数日でも出ることもありますが、多くは5～6週目くらいから起こりやすくなります。

症状は軽いままで推移することもあります、徐々に強くなっていく場合もあります。

自覚症状としてはボタンがかけにくい、物を落とす、1枚膜を張ったよう、つまずきやすいなどです。

対策:早い時期に発見した方が回復も早いため、日ごろから注意してください。

症状があるときには刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用するなどです。

しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。

吐き気・嘔吐

好発時期:治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が7日間程度続く方もいます。

対策:抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンク、など)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。



白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期:抗がん剤を投与後7~14日目くらいに減少のピークを迎え、21~28日目くらいには回復します。

対策:細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



血小板減少

血小板は出血を止める働きがあるため少なくなると止まりにくくなったり、出血しやすくなったりします。

好発時期:抗がん剤を投与後7~14日目くらいに減少のピークを迎え、21~28日目くらいには回復します。

症状としては、あざができやすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなったなどです。

対策:ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。

歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。



貧血

赤血球の成分が少なくなると貧血を起こすことがあります。自覚症状としては息切れ、動悸、手足の冷え、倦怠感、立ちくらみなどが現れます。

好発時期: 抗がん剤投与後7～14日後より徐々に症状が現れてきます。

対策: 激しい運動は控え、無理のない範囲でゆっくり動くようにしてください。

鉄分が少なくなっているケースでは食事から摂取できるよう心がけてください。

関節痛・筋肉痛

好発時期: 抗がん剤投与の2～3日後くらいに出てくることがあります。

ただし、症状は軽く数日で回復する場合があります。

症状が辛い場合はお伝えください。

対策: 患部のマッサージで血流を改善するとよくなる場合があります。

強さによって痛み止めを処方することもできますのでお伝えください。

口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接傷害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によって起こる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触るとザラザラするなど)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤、腫脹などです。**起こりやすい場所は下唇の裏側、頬の内側、舌の側面などです。**

好発時期: 抗がん剤投与後、数日～14日目くらいに発症しやすくなります。

対策: 次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療など

3. 栄養状態の不良

4. 口腔付近の放射線治療

5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外にも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭など)はその都度行うことがよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩: 4.5g ⇒ **小さじ(5cc)で約1杯**

水を加えて500ml 起きている間2～3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎ができてしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。

水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。

必要に応じてお薬を処方しますので口内炎ができてしまったらご相談ください。

水疱や白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ・呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



アレルギー

好発時期: カルボプラチンは投与回数が増えてくると(おおよそ8回程度)発生しやすくなると言われています。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹が出る、汗が出るなどです。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくるともあります。

好発時期: 点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

※この他にも日常と違った症状が出た場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表: Tel 028-626-5500